

719

昭和49年度

事業計画
収支予算書

財団法人 日本常民文化研究所

(一) 事業計画

本年は、大正14年8月、渋沢敬三がロンドンより帰国、12月4日に、アチック復興第1回例会を開いてから、数えの50周年にあたる。これを新らしい節として、研究所の運営を本格的な軌道にのせていきたい。

その記念事業の1つとして、秋に「民具研究講座」(於・日本青年館)を開設する。近年、ようやく民具の重要性が認識されるようになり、民具を対象とする博物館も多くなり、アチックの役割の増大が痛感される。そして50年前に、ほぼ今日あることを予測し、民具の収集および調査研究を通して、現代の要請に応えるべく準備してきた、渋沢の遠見をわれわれは改めて評価している。したがって渋沢敬三記念「民具研究講座」は、今後、積極的に拡大していく必要がある。

釜研究会および民具研究会は、ひきつづいて活発である。また水産庁資料館よりの「同館所蔵古文書目録」の編纂委託などを、まず基礎にして、戦前アチックの同人制を、現在に応用した、新たな研究員制を発足させたい。

I 「民具研究講座」の開設

民具学は民間の新らしい学問で、これを盛んにするためには、いくつかの方策が早急に確立されねばならない。その組織化は、「民具マンスリー」が43年より発刊され、その役割を果たしてきた。そうした、いわば同人が、一堂に会して研鑽しあい、意志の疎通をはかることは、従来、行われなかった。また広い意味での方法論の確立も、こうした講座開設に、より役割があるであらう。さらに民具を扱う博物館施設にたいしても、早急に適切な指導が望まれる。端的には学芸員の資質の向上が急務で、講座はこれに依っていかね

ばならない。

II 「研究員制」の確立

民具の学問や漁業史その他、アチックが手がけてきた学問分野は、概ね従来の学者が顧りみなかった領域であった。そしてこれらの領域の開拓にチームワークをもってした。その基礎がアチック同人制にあったことはいうまでもない。ここにおいて、戦前アチックの同人制を、現在に應用した、研究員制を早急に確立する必要がある。

研究所の置かれている状況においては、所員を増やすことは非常に困難であるので、一定の目標にたいして共通の関心をもちうる同人に、むしろ機関を開放し、積極的な参加を受入れて、共同研究の実をあげていく、「研究員制」は、こうした中であって、核となるべき存在者の位置づけを担うものである。

III 「釜」「民具」研究会

釜研究会のスタートは、昭和47年12月で、レギュラーは7人である。分担項目は次のごとくである。

1. 標本資料の整理並に測定、釜の構造、名称
2. 釜の製作及び釜と他の関連漁具
3. 釜の入手方法、漁獲物の販売、及びこれが食制上の位置、ムラの同業者状況ほか
4. 釜の文献資料、名称及び史的考察
5. 外国文献資料

研究会は月一回ではあるが、着実に行われている。当初向う2カ年間に、一応メドをつけることにしたが、資料の収集、整理、調査の進行及びこれらの検討は、ほぼ予定通りに進み、50年度中に取りまとめを行なう。

「民具研究会」は、参加者は15名内外で、本格的な報告検討がなされて

いる。今後ともその役割は大きい。6月より、ここから「民具博物館研究会」(仮称)が分化独立する。その運営は幹事制をとる。

IV 「水産庁資料館所蔵古文書目録」の作成

水産庁資料館は、昭和50年に、開設20周年を迎え、その記念事業として上記目録の編纂が企画された。これは昭和24年から、大体29年まで、月島分室において行われた。今回の対象は、漁村古文書の収集、整理、筆写事業のうち、「寄贈分」がこれに相当する。大略3万5000点あり、2カ年継続の予定であるが、戦後アチックの一連の事業であるので、積極的に取り組んでいきたい。

V 「民具辞典」の編纂、その他の出版

民具辞典の取りまとめは遅れているが、昭和50年の出版を目標に、本年度内に原稿の完成をはかりたい。

「民具マンスリー」は発刊いらい7年目を迎えている。昨秋の石油危機に端を発する、急激な出版事情の悪化により、大幅な会費値上げを余儀なくされ、さらに大幅な郵送料の値上げを控えて、困難な条件下にあるが、幸いにして、会員の減少は、最小限度におさえられた。

『民具論集』5、『常民文化叢書』10輯も予定より遅れているが、年内に出版の見込みである。

昭和49年度収支予算

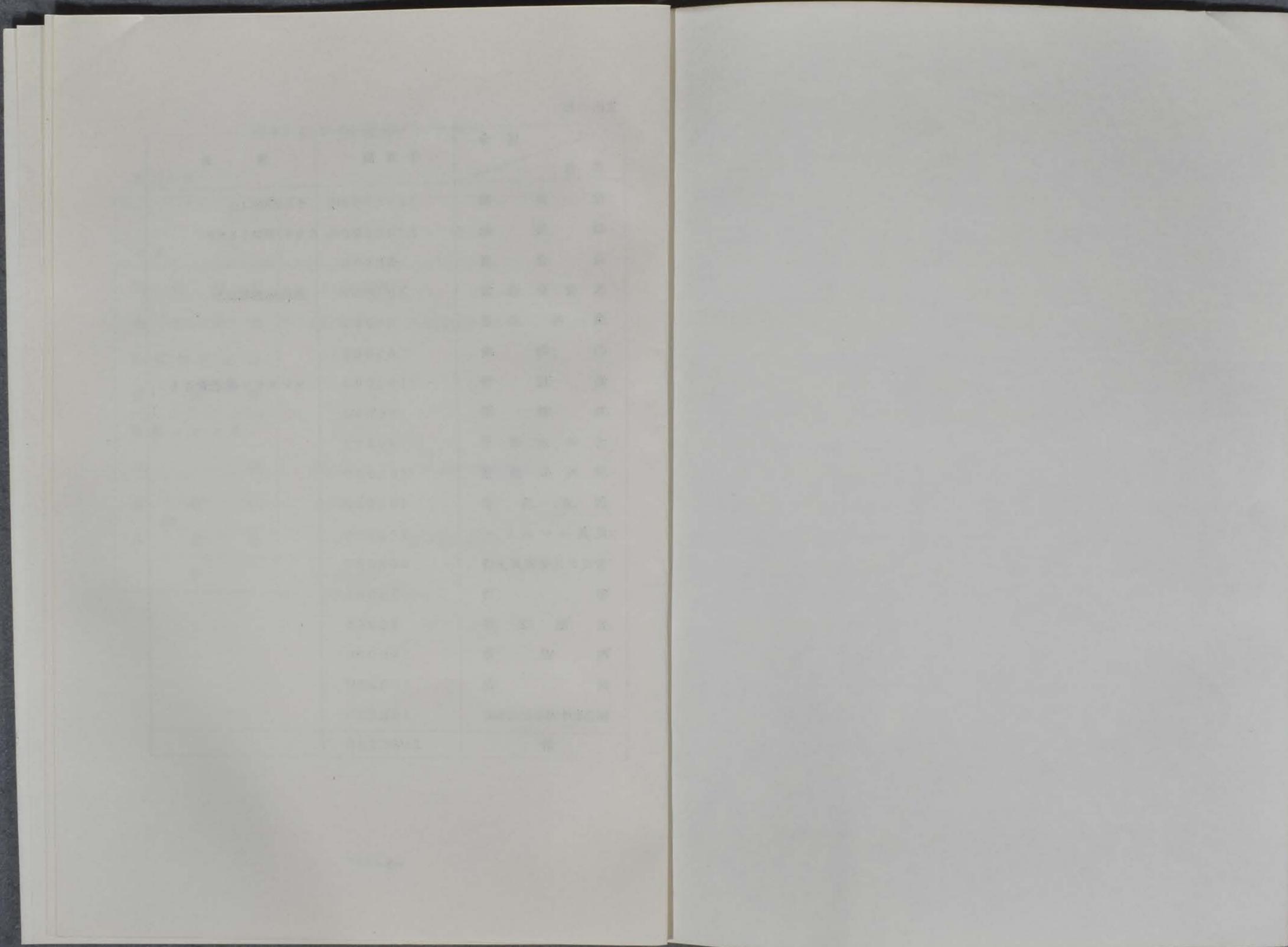
収入の部

項目	区分	予算額	備考
預金利息		200,000円	
株式配当		2,650,000	清水建設株式会社7,905株ほか
出版物売上金		500,000	
委託費		0	
民具マンスリー		875,000	
印税		1,200,000	日本常民生活資料叢書
雑収入		1,500,000	
積立金		640,000	積立金とりくずし
計		7,565,000	

支出の部

項目	区分	予算額	備考
役員給		1,600,000円	10万円×16
職員給		2,720,000	8.5万円×16×2
会合費		30,000	
旅費交通費		300,000	通勤定期代ほか
消耗品費		80,000	
印刷費		60,000	
通信費		150,000	マンスリー発送費とも
共益費		85,000	
光熱水道費		40,000	
資料収集費		300,000	
調査旅費		400,000	
民具マンスリー		900,000	
常民文化叢書買上費		500,000	
労賃		30,000	
公租公課		40,000	
備品費		30,000	
雑費		150,000	
創立五十周年記念事業		150,000	
計		7,565,000	

719



719

